

今月のことば

それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。
エゼキエル書 35:11

この聖書はエルサレムが神殿崩壊する時代に活躍した預言者エゼキエルの預言です。

ここに登場するセイル山とは、死海の南東地域の名(今はヨルダン王国)で、そこに住み着いたエドム人を間接的に指すため用いています。

散らされたイスラエルの民が約束の地に帰って来る場合、一番の脅威はその地を自分のものにしようと狙っていた周りの諸国民でした。イスラエルの民がその地を所有して、そこで安らかに住むためには、彼らのあらゆる企てが打ち破られなければなりません。

エドムはヤコブの兄エサウの子孫です。イスラエルの弱体化に乗じて占領しようとしていました。

神の選びは、アブラハム、イサク、ヤコブと受け継がれてきました。エサウは創世記 27:40 にありますように、父イサクのことば「お前は自分の剣によって生き、自分の弟に仕えることになる。」との通りになったのです。この事からヤコブ(=イスラエル)に対する恨み、憎しみを抱き高ぶりました。この態度は次の行動に現れてきたのです。弱体化するイスラエルに攻めてきたバビロン軍に加担し、積極的に攻撃に加わりました。その上逃げるイスラエルの民をバビロン軍に引き渡しました(オバデヤ書 10-14)。しかし、主はエドムのその様な限りなき敵意を裁かれるのです。

神はエドムがイスラエルに対して行った嘲り、侮辱は神ご自身になされたものだと考えているのです。エドムを裁く⇒その時神は自らを現すと宣言されました。

このエドムの先祖エサウは、お腹が空いたので、弟の煮豆で腹を満たしたいと望んで、長子の権利など何の役にも立たないとヤコブに渡しました(ヘブル人への手紙 12:16)。このエサウを聖書は淫らな者と記しています。

この出来事は、目に見えるもの、欲望に目が眩んだと言って良いでしょう。神が人間に与えた永遠を思う思いなど興味ありません、という不遜な態度です。

このエサウの末路は、エゼキエルの預言後 900 年に完全に実現したのです。エドムは滅びたのです。

あなたはこの事からどのように考えるでしょうか。
神は生きておられるのです。真実な方に信頼する者でありたいですね。祝福をお祈り致します。